

# 会報

## 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第22号  
2012年3月13日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp



### 原発いらない！ 3・11福島県民大集会 地元労組を先頭に全国から1万6千人

東日本大震災と原発事故から1年となる3月11日、福島県郡山市の開成山野球場で「原発いらない！ 3・11福島県民大集会」が開催されました。地元の福島県教組などを先頭に全国から約1万6000人が集結。作家の大江健三郎さんや県民代表らが発言。東京、大阪、札幌、福岡でも大規模な集会やデモが行われました。

### 呼びかけ人になるについて

佐藤功一 (元国労横浜支部執行委員・元国労新鶴見操車場分会長)

今年2月に新たに呼びかけ人に加わった佐藤功一さんのメッセージを紹介します。

全国運動要綱の「新自由主義攻撃への対抗軸となる新しい労働運動をつくりあげる」に共鳴して「呼びかけ人」にさせていただきます。

「呼びかけ人」として一番呼びかけたいのは、国労組合員、特に「政治決着」に応じこれに賛成した国労闘争団の諸君です。また国労と4者4団体の諸君です。

国鉄闘争全国運動の名称「国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動」に参加するのは、「政治決着」して1047名解雇撤回闘争を終結することにした諸君の立場からすれば抵抗感があるところかもしれません。私がいろいろ考えた結論は、あまり気にせず「1」の内容—新自由主義との闘いを重点に考えて運動してほしいということでした。

具体的には当面の運転検修下請け化、駅の全面下請け化のり

ストフ反対闘争の最先頭に立つて闘うことです。それが国鉄闘争全国運動への参加であり、この運動への極めて大きな貢献であることは間違いありません。

「政治決着」した諸君が1047名解雇撤回闘争が得意なのは当然でやむを得ないが、その代わりに新自由主義との闘いの当面の最重要点であるアウトソーシングリストラとの闘いの最先頭に立つてもらいたい。それは偉大な貢献であると訴えたいのです。

一言メッセージの「千葉動労のような労働運動をめざし」「たたかう労働運動をめざし」というのと同じです。千葉動労のやっている労働運動については私は従来から同意を表明し、敬意も明らかにしてきました。千葉動労はよく闘っている。ここで多くを語る紙面はありませんが、検修リストラ反対闘争一つとっても充分言えることです。しかし千葉動労「悪論」が横行しているようなので、千葉動労「善論」・立派論の宣伝を強化する必要があると思った。これも私が「呼びかけ人」になった理由の一つです。

「佐藤功一さん略歴」(1950年) 国鉄東京鉄道管理局入社 (1956年) 国労新鶴見操車場分会副分会長。年末闘争3時間勤務時間内職場集会(「ストライキ」)で停職2ヶ月の処分。(1957年) 分会長に就任。同年春闘の3時間勤務時間内職場集会(「ストライキ」)で公労法解雇。専従分会長兼横浜支部特別執行委員となる。以降、横浜支部執行委員、副委員長などを歴任。

(1981年) 準専従者の身分で国労本部にあり、202億円損害賠償委員会、調査資料室勤務を経て (1987年) 国労を定年退職し「国鉄分割民営化反対闘争」の諸問題」を作成。

### 千葉動労 4月1日の外注化実施を阻止！ 外注化と出向に徹底抗戦を宣言

千葉市民会館で3月4日、「中野前委員長追悼、外注化阻止・12春闘勝利/3・4動労千葉総決起集会」が行われました(写真)。外注化や基地再編攻撃など動労千葉の命運を決めるような激しい闘いの最中、清水匠執行委員が急逝する中で集会は開催されました。

田中康宏委員長は、「労働者は団結を守り抜いて闘うことができる。労働組合は素晴らしいものだ。これが中野前委員長が残してくれた財産だ。この遺志

決起を訴えました。

「JR東海で車両に1600のヒビが出て『直ちに安全に支障がない』と補強して運用している。これが分割・民営化」 「4月の外注化は止めたが会社はあきらめていない。組織拡大で完全に止める。動労千葉は出向には行かない。出向協定も結ばない」「反動判決に怒りが渦巻いているが団結できている」など、組合員の報告と決意が次々と続きました。

最後に青年部が決意表明。「先輩たちと外注化阻止へ闘う。自分だけ助けられと思っている奴に労働運動は楽しいものだと思顔で獲得したい」

# 動労千葉に続き、職場から外注化阻止を

## 奪われた労働条件を取り返す

国鉄闘争全国運動・東部の会

私自身は自治労に加盟していません。自治体の職場では民間企業に委託している職場が多い。私も民間企業に勤めていて、自治体発注のいわゆる公共公務の職場で民間委託の労働者として働いています。

動労千葉の非正規を増やさない闘いと一体のものとして、自治労の中で民間委託の労働者の闘いを進めていきたい。

### 外注化先の闘いが重要

重要なのは、まず非正規を生み出さない闘いが正規の労働者の重要な任務だということです。同時に、すでに非正規化されている職場の労働者といかに連帯するかということです。



## 銚子運転区廃止反対！ローカル線切り捨て反対 人事権を盾に組織破壊攻撃をするJRを許すな

動労千葉銚子支部の呼びかけで3月10日、「銚子運転区廃止反対！ローカル線切り捨て反対」の3・10銚子総行動が行われました。厳しい寒さと風雨にも関わらず、地元の労働者や議員など100人が結集しました。

るな職場がある。その中から会社は利益を吸い上げている。なぜわれわれだけがその会社の一つの現場の落札金額の中で賃金が決まらなければいけないのか、という感じで会社との経営交渉をやっています。

### 労働条件を取り戻す

その中で、会社の中の利益を吹飛ばして自分たちの賃上げを勝ち取ろうとします。そうすると、委託された先の労働者が困ることは不可能です。

## JR大再編—組合解散は許さない

動労千葉を支援する会・新潟の報告

### 再編の核心は労組破壊

今、JRグループ内では会社再編がたくさん行われています。その中で、NIRK（新潟交通機械株式会社）が東日本トランスポートとジェイアール東日本メカトロニクスに吸収合併・吸収分割されようとしています。

これは、車両製造部門と機械部門の大きな再編です。それが具体的には非正規労働者の雇止めと再編後の大幅賃下げという形であらわれています。

そして、最大の攻撃がNIRK労働組合を解散させることです。トランスポートとメカトロニクスには労働組合がありません。JRグループの大再編とは、会社の合併や吸収で、労働組合を消滅させていく攻撃でもあるのです。

### 闘いの意義

この闘いは一つに、労働組合を本場に現場労働者の手に取り戻し、職場にまっとうな労働運動をよみがえらせる闘いです。これまで会社の手先と成り果て

注された側の労働者の、奪われた労働条件、賃金を奪い返す闘いと結合することによって、この外注化、委託化、非正規化は必ず粉砕することができます。

た執行部はこれまで雇止めや賃下げに対して沈黙を決め込んできました。

労働組合の名で現場労働者を踏みつけるという恥知らずなことをやっていると、「もう労働組合は必要ない」と解散させてしまったら、労働組合と労働運動に未来はありません。

二つに、JR大再編との闘いでは、JR大再編とは外注化・非正規化、そして組合解散・削減攻撃です。コストダウンがすべてに優先し、非正規化が進められていき、NIRKで言えば2次下請けが増えていく。他の多くのJR現場と同じ現実がはじまっています。

今回の攻撃と闘うことは、他のすべてのJR現場で怒る労働者とながっていく大きな意義があるとあります。

組合も捨てたもんじゃありません。闘いの渦中で感じた、大事なと思うことと今後の課題を述べます。

組合内では「解散やむなし」の声が多数を占めており、簡単な闘いではありません。「言っていることは間違っていないけど」という反応が返ってくる毎日です。

しかし、それでも大事なものは労働組合の持つ力—労働者の持つ力に確信を持つことです。それは全く根拠なしに確信することとは難しいですが、以前、組合定期大会で執行部が出した提案を労働者の力で阻止したことがありました。こうした闘いを経て「組合も捨てたもんじゃありません」と労働者は実感しています。労働組合は、本当は大したものだということを言葉の

上だけでなく、ちゃんと実感することはものすごく大事だと思います。

### 職場と組合にへばりつく

この間ヒラまきへの共感や賛同がドンドン出てきています。資本の攻撃に対してちゃんと声をあげ、それを何年も継続するというのは大変です。緊張とプレッシャーの中の闘いです。しかし、その中で闘い続けなければならない仲間が現れる、そこに確信をもつことが大事だと思います。

2010年の4・9政治解決をもって動労千葉派が国鉄1047名闘争の責任勢力となった。分割・民営化の破綻をさらなる4・1外注化によって乗り切ろうとするJR体制を打倒する現場労働者の反乱、これを先端とする国鉄闘争全国運動の推進—階級的労働運動の復興、現場で勝負する闘いこそが1047名闘争の勝利の道がある。

## 2月冬季物販第2弾を決断！

東京西部・動労千葉を支援する会

まず夏季、冬季に物販で訪問している数百の職場から物販を取り組んでくれた所、逆に会うべき人に会えなかった所を100力所選抜した。

### 訪問先100力所を選抜

ここでは学校を例に論ずる。教育労働者との面談は放課後など時間が限られている。したがって小、中、高校すべて、何時に面談できたのか、データとして残すことが有効である。同じ曜日の同じ時間に訪問すれば、会える可能性が高い。

さらに教員に会えなくとも、ガードマン、事務室、主事用務給食など民営化、外注化、非正規化の攻撃にさらされる労働者と面談できることを忘れてはならない。

今、2月冬季物販IIの訪問

国鉄分割・民営化は過去の話ではありません。今まさに激しく起きていることなんだと実感しています。労働者には、何十年たっても忘れられない、許せないことがあるし、それに対して必死に闘う者に本当に共感と信頼を寄せられるのだから感じました。

資本の攻撃と真正面から闘い、一人ひとりの労働者と向き合う。この当たり前のことを徹底的にやりぬいて、JR大再編・労働組合解散攻撃に打ち勝ちたいと思います！

この蓄積は地区の全産別、職場を掌握していくということである。学校現場は数年で異動させられる。物販の中心の人が異動してしまうと、物販も途切れてしまふことが多い。さらに異動した新たな職場で物販を再開できない、もしくは一人で使っても多い。いかにして既成労働指導部と対峙しながら、闘うフランクションを現場で形成し、組織拡大していくか、スバリこの問題がこれからの課題である。

動労千葉支援する会の拡大から階級的労働運動の復権へと向かうためには、物販の推進、拡大が決定的と確信する。原則的にかつ柔軟な諦めない闘いの前に壁は必ず突破しうる。